

悪堕ち...

寝取られ...

陵辱...

悪道チノ姫様

おちたは梅

ニセキメノケネ

又又又 屋 じよう ござい!!



前回のあらすじ

ステビア海への打通作戦の失敗により敵「深海棲艦」に囚われ
鹵獲された重巡愛宕…

連れ攫われた先で敵に多くの^{はずかし}陵辱められたのち、性の快楽に溺れ
敵の手に堕ち、心と体をゆだねていくのであった…

その数日後、自ら捜索隊に参加した彼女の「元」提督の船を沈め
囚え上げ、猫のようにじゃれ遊び、男を性奴隷として作り上げ、
おもちゃのように使い倒し、甘美で愉悅で醜悪な性衝動に自らを
沈めていくのであった…

そして…その毒牙は新たな標的を見つけ、不敵に笑う

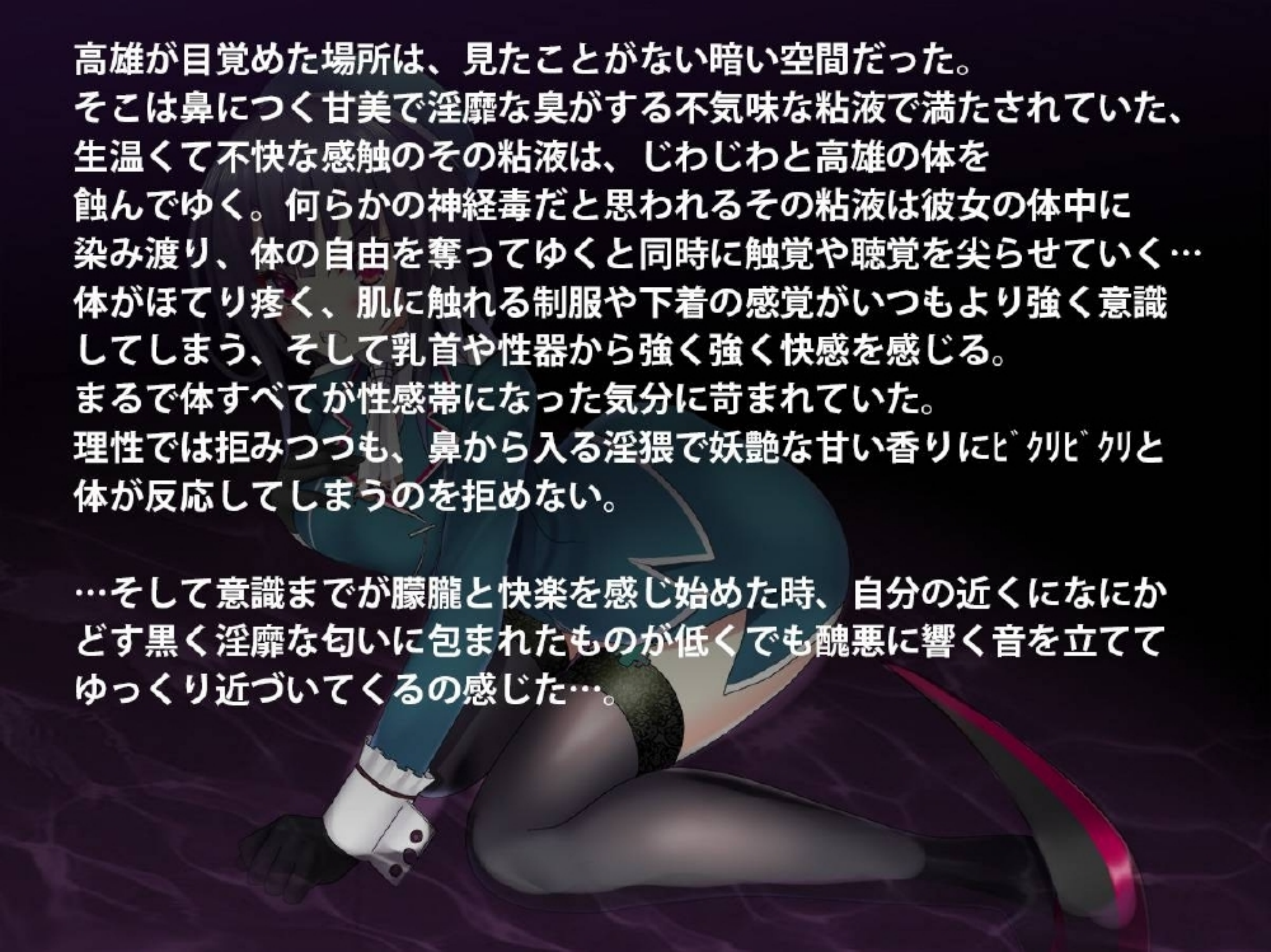
「…何？ …なんなの？ …ここどこよ！ 真っ暗で…？
何も見えないじゃない！ 一体どうなってるのよ！
私…、沈められた？ …じゃあココは何？ 提督を探しに來ただけなのに
あんな激しい戦闘になるなんて…。旗艦を務めた私のミスね…
他の子たちは無事かしら？ 摩耶や鳥海たちがついてるから
大丈夫でしょうけど…、不安だわ…。」

え！ 艦装がないわ！ 照明弾も夜偵もないわ！」

「これは…水？ 海水じゃなさそうね？ 粘度があって気持ちが悪いわ…
それに誰もいないわ？ 敵の住処？なのよね？ 不気味だわ。
でも好都合よね、敵の本拠地も掴めたし、今のうちにここから脱出しなきゃ！
鎮守費に戻って体制を建て直すの、そしてもう一度…」

あれ…？ 足が…？ ウソ！ 体も？ やだ！ …こんなところで…
冗談じゃないわ！ 早くしないと敵が来ちゃう！」





高雄が目覚めた場所は、見たことがない暗い空間だった。そこは鼻につく甘美で淫靡な臭がする不気味な粘液で満たされていた、生温くて不快な感触のその粘液は、じわじわと高雄の体を蝕んでゆく。何らかの神経毒だと思われるその粘液は彼女の体中に染み渡り、体の自由を奪ってゆくと同時に触覚や聴覚を尖らせていく…体がほてり疼く、肌に触れる制服や下着の感覚がいつもより強く意識してしまう、そして乳首や性器から強く強く快感を感じる。まるで体すべてが性感帯になった気分苛まれていた。理性では拒みつつも、鼻から入る淫猥で妖艶な甘い香りにビクビクと体が反応してしまうのを拒めない。

…そして意識までが朦朧と快樂を感じ始めた時、自分の近くになにかどす黒く淫靡な匂いに包まれたものが低くでも醜悪に響く音を立ててゆっくり近づいてくるの感じた…。

「はあ、はあ…そこにいるのはわってるわ！
なによ！出てきなさいよ！あなた私の事甘く見てるのね！
私は…これでも重巡よ！艦装なしでも十分戦えるわ！
後悔させてあげるから、かかってきなさい！
絶対…、ここから脱出して、こんなところ焼き払ってあげるんだから
覚悟しなさい！ はあ…はあ…♡」



「んうツ♡ はあ…♡ はあ…♡
あ、あれ？ くう！ 体が言う事きかないなんて…でも
まだ何かできるはず…！ 諦めないわ！」

ぐね♡♡

「はああ♡はああ♡はああ♡♡♡♡♡

絶対許さない！こんな事してただじゃおかないんだから！
これ以上何かしたら暴れてやる…、こんな気持ち悪いの♡♡♡♡♡

噛み切ってやるんだから…いまに見てなさい！

はああ♡ はあああ♡♡♡♡♡ くっそ…

やだ…また声が出ちゃった…♡♡♡♡♡さん♡♡

なんとか… なんとかしなきゃ…

「ああん♡♡♡♡♡ あああん♡♡♡♡♡」

ぐね♡♡

ぐね♡♡

くっ

くっ

くっ

ぐね♡♡

ぐね♡♡

ズズズ





いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか

いなか



ぐぐぐ♡♡♡♡♡

「ぶぐう♡♡♡♡♡ んうー♡♡♡♡♡」

（く、口の中に…無理やり♡♡♡♡♡ な、生臭い♡♡♡♡♡

でも、なに♡♡♡♡♡ 脈打ってる…こんな気持ち悪いのに…

舐めたい？ なんてなんでなんで？♡♡♡♡♡

こんなことしたくないのに♡♡♡♡♡ なんて、なんでえー♡♡♡♡♡

ぐぐぐ♡♡♡♡♡

ぐぐぐ♡♡♡♡♡

くー♡♡♡♡♡

ぷるん♡♡♡♡♡

ぷるん♡♡♡♡♡

ズズズ

ぐぐぐ♡♡♡♡♡

ぐぐぐ♡♡♡♡♡



ぐね♡♡♡

「ぐくくん…はあ♡…あはあ♡」

(はあ♡♡♡はあ♡♡♡の、飲んじゃったあ…♡♡♡飲まされちゃったあ…♡♡♡ああ…汚されてく…私の汚されちゃってる…♡♡♡私どうなっちゃうの…どうなっちゃうの？ 提督…)

ぐね♡♡♡
はっ♡♡♡

ぐね♡♡♡

ぐね♡♡♡

ぐね♡♡♡

ぐね♡♡♡

ズズズ

やだあ！こ、こんな格好…♡♡♡ 絶対ダメ！
はなして…、はなしてよ…♡♡♡
や、やだ、おま○こ…丸見えじゃなら…！
は、はなして！ それ以上は…

「きちゃんツ♡♡♡」

はなしてっただらう！

こんなのダメだったたらあー！



あーん♡♡♡

「うー、うー、母乳…母乳…」

なんで？ おっぱいから母乳が出る…♡♡♡♡♡

な、なんで？ しんぞう… 勝手におっぱい飲んでるの…♡♡♡

私のおっぱい飲んでるの♡♡♡ 私のおっぱいってしゃべってるの…♡♡♡

ああ…でも…おっぱいから…♡♡♡ おっぱい吸われるの…♡♡♡

やだ…なんで？ ♡♡♡ ♡♡♡ ♡♡♡

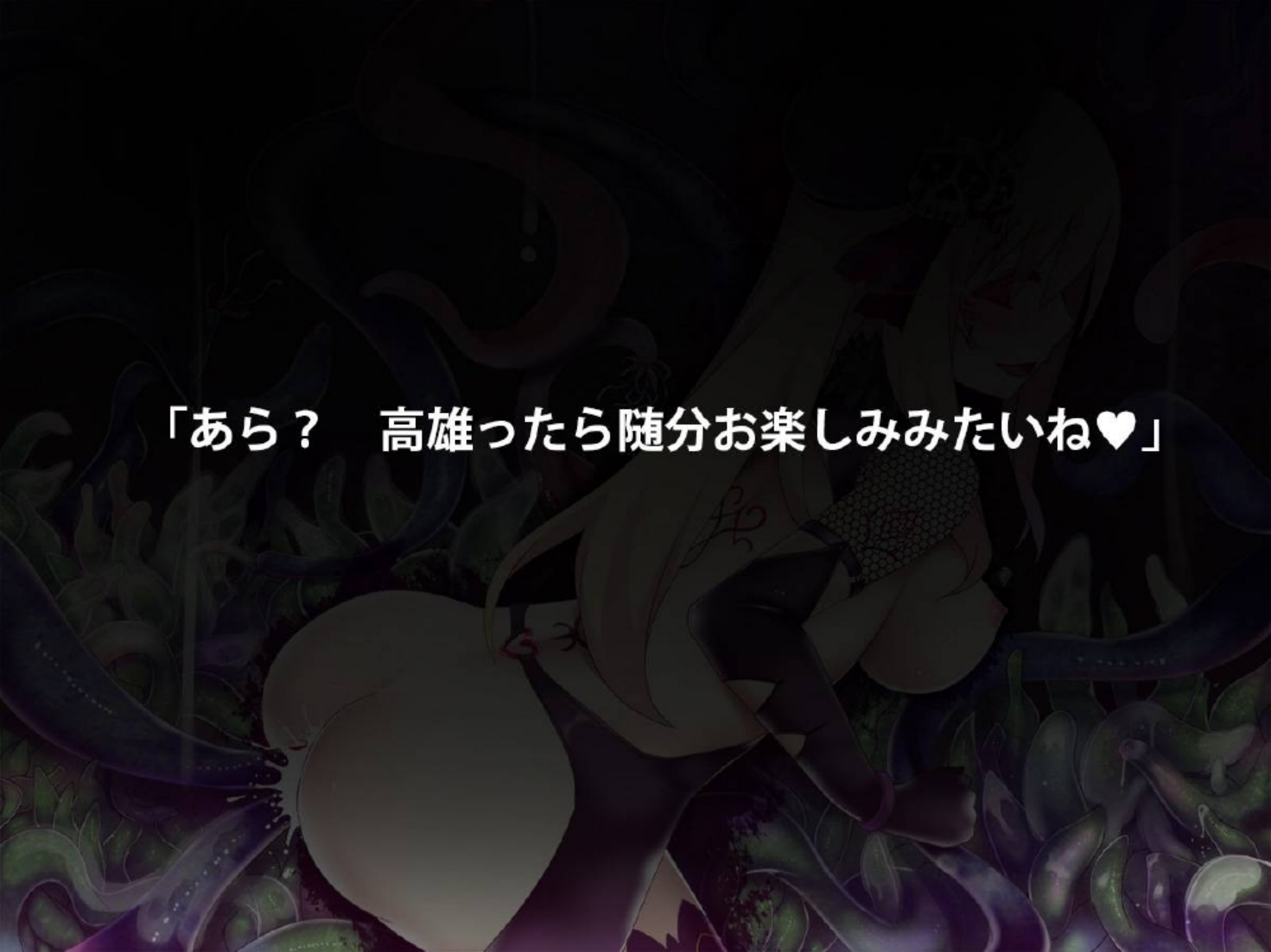
ドグドグ♡♡♡

おん♡♡♡

おん♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡



「あら？ 高雄ったら随分お楽しみみたいね♥」

淫靡で淫猥で甘美で官能な快樂に埋もれようとしていた
高雄の横から聞き慣れた声がある…

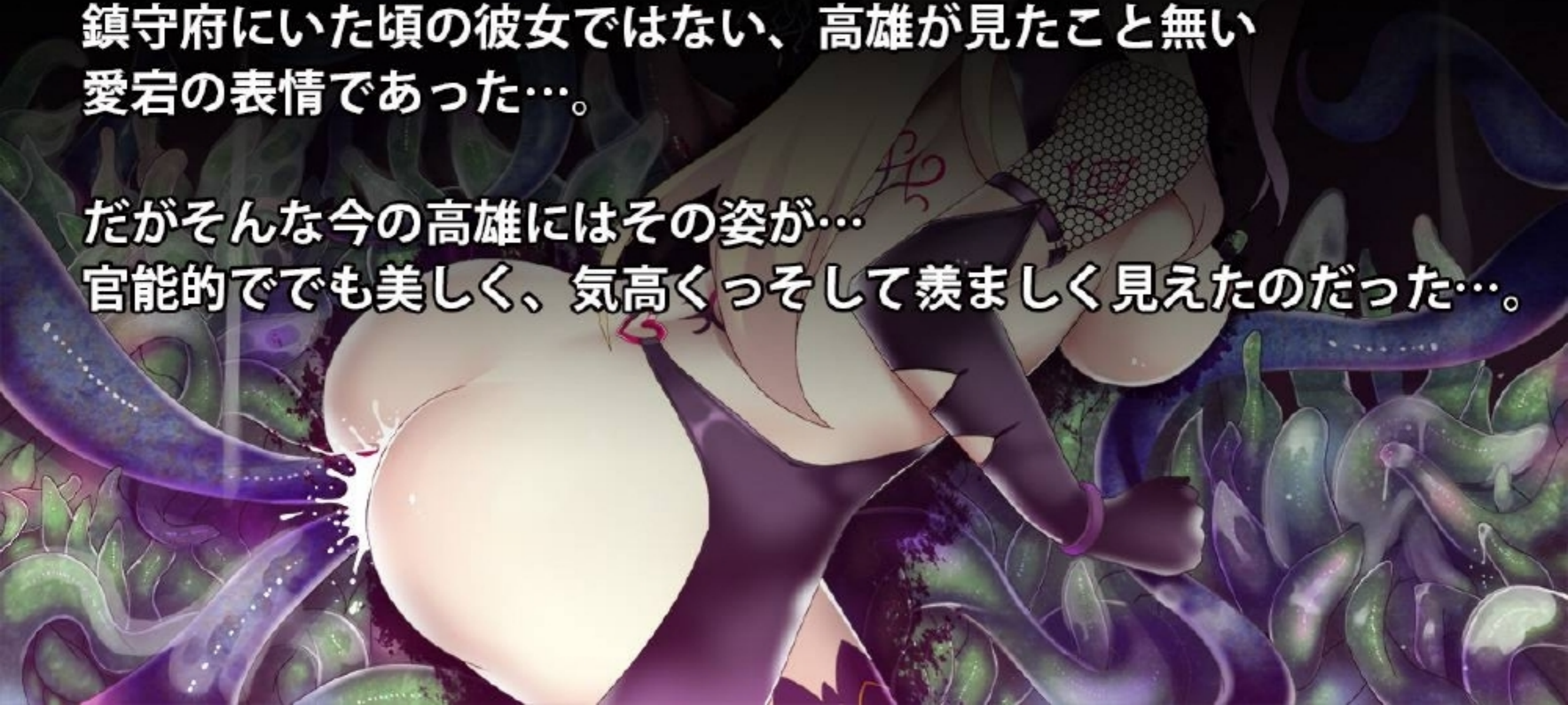
その声の主は、探し求めていたはずの彼女の変わり果てた
姿だった。

大量の触手の中で嘲笑する姉妹艦愛宕…

体の隅々、穴という穴に触手を嵌めて愉悅に頬染め、口角が上がる
鎮守府にいた頃の彼女ではない、高雄が見たこと無い
愛宕の表情であった…。

だがそんな今の高雄にはその姿が…

官能的ででも美しく、気高くっそして羨ましく見えたのだった…。



♪♪♪♪♪

「アナタが外の海でうるちよろしてたけど、

もしかして私を探してたのかな？ ふふふ…♡♡♡♡♡

うれしいわあ〜♡♡ 沈んだ私の事を探しに来てくれるなんて♡♡

でも私はもう帰るつもりは全然ないのお♡♡♡♡♡

だって私はもうご主人様の艦なんだもの♡♡♡♡♡

それにあなた達のテイトク…っだったかしら？

あれもここににいるわよ？ 今は私のオモチャになってるけどね♡♡♡♡♡

後で見せてあげるわ♡♡♡♡♡ すっごく面白いからあ♡♡♡♡♡


ひいひい鳴きながらザーン出すところなんて垂れ流してるわ♡♡♡♡♡

ふふふふふふう〜♡♡♡♡♡」

フッパッ

クッパッ

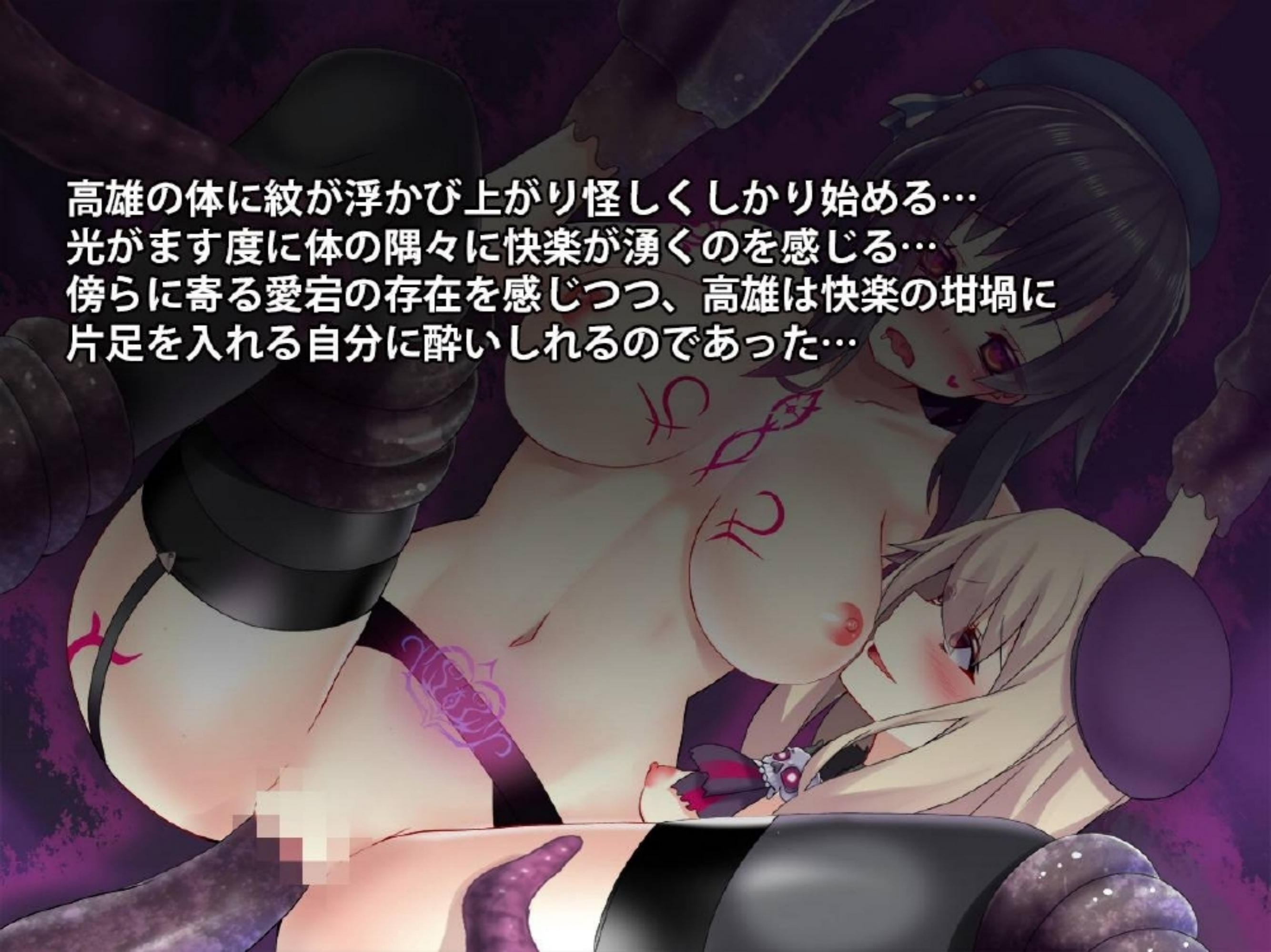





(なに……？ 私を改装？ どうして……？
わたしも愛宕みたいになるの？
こ、怖いわ……、でも……なぜかしら……
この体の奥の方から湧いてくる気持ちは……♡
ちよっと……体が喜んでるの……♡♡♡)

♡♡♡
♡♡♡

高雄の体に紋が浮かび上がり怪しくしかり始める…
光がます度に体の隅々に快楽が湧くを感じる…
傍らに寄る愛宕の存在を感じつつ、高雄は快楽の坩堝に
片足を入れる自分に酔いしれるのであった…





(ああああ〜♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡
わたし…されるがままだあ…♡♡♡♡♡
抵抗できない…？ 違う…もうこの状況を
受け入れてるんだ…♡♡♡♡♡
もう…ダメ…♡♡♡♡♡ わたし楽しんでる、やっと
愛宕に会えたのに…
そんなのどうでも良くなってる…♡♡♡♡♡
もっと気持ちよくなりたい♡♡♡
もう脱出とか…テイトクとかもいつか♡♡♡♡♡
早く気持ちよくなりたい♡♡♡♡♡
たくさんたくさん虐めて欲しい♡♡♡)

「あらあら、すごい乱れっぷり

こんな高雄初めて見たわあ♡♡♡

おま○こからすごい音してるわ♡♡私も

欲しくなっちゃった♡♡♡

あああん♡♡♡ 私のおま○こも

ビクビクしてきちゃった♡♡♡

あとで私もぐさるぐさるしましよ♡♡♡

あゝ♡♡♡

はあ♡

はあ♡

♡♡♡

「ああああん♡♡♡

ああん♡♡♡ ああ♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

らめらめらめえええ♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

しゅごいいいい♡♡♡ ああん♡♡♡

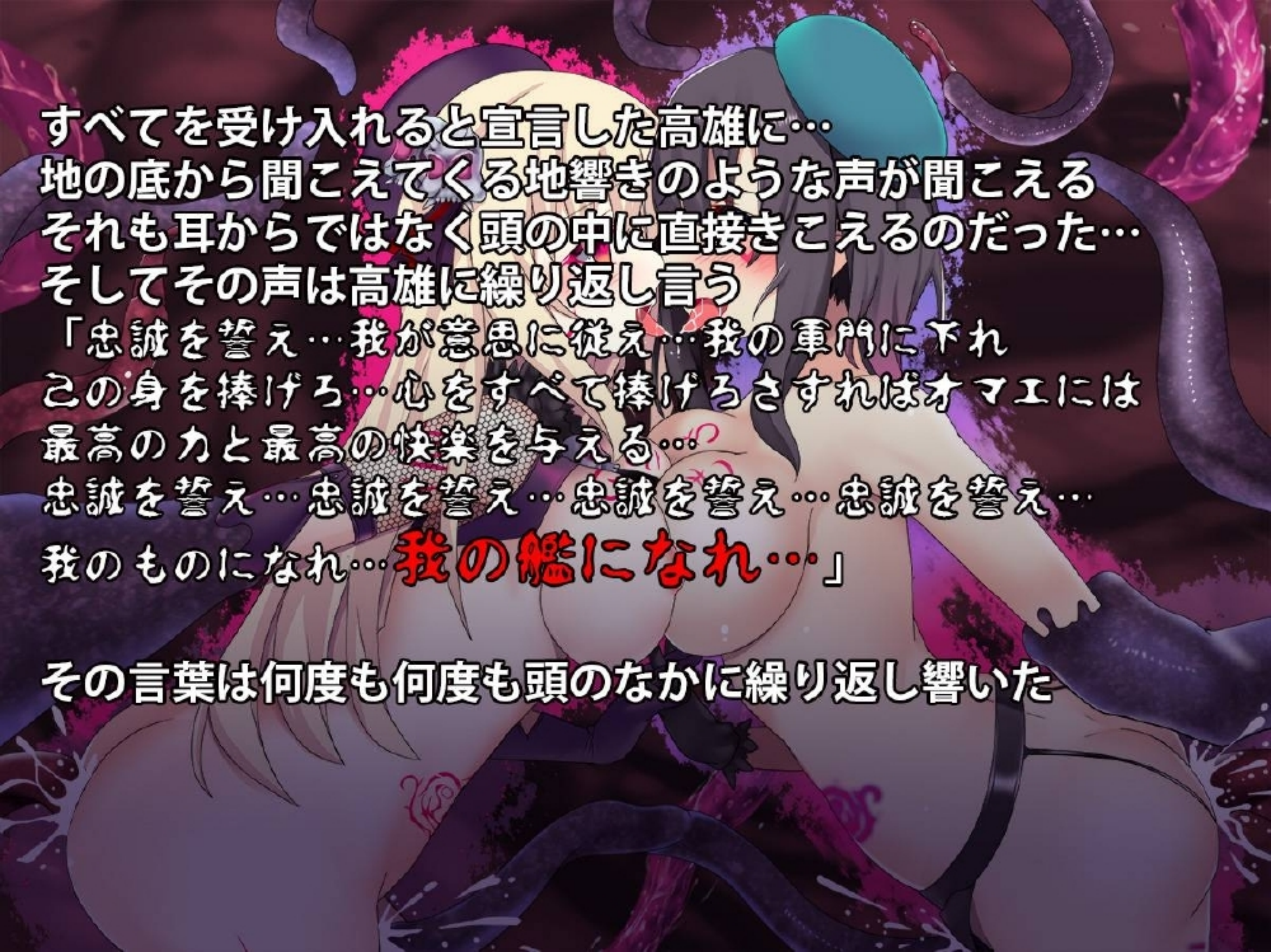
♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

しゅごのおおお♡♡♡

私壊れるううう♡♡♡

壊れる♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

あゝ♡♡♡



すべてを受け入れると宣言した高雄に…
地の底から聞こえてくる地響きのような声が聞こえる
それも耳からではなく頭の中に直接きこえるのだった…
そしてその声は高雄に繰り返し言う
「忠誠を誓え…我が意思に従え…我の軍門に下れ
己の身を捧げろ…心をすべて捧げろさすればオマエには
最高の力と最高の快楽を与える…
忠誠を誓え…忠誠を誓え…忠誠を誓え…忠誠を誓え…
我のものになれ…**我の艦になれ…**」

その言葉は何度も何度も頭のなかに繰り返し響いた

高雄がそう答えると、腹部の淫紋がどす黒く光り出しそれは高雄が深海棲艦に忠誠を誓った印であり、元いた鎮守府を裏切り敵の軍門に付いた烙印でもあった。その印が完全に貴様れると同時に高雄の体は変化を始める髪は白く染まり始め、瞳は淫靡に輝きだしたのだった…そう深海棲艦化が始まったのである…



「ああああああああん♡♡♡♡♡ 私、変わってくの♡♡♡♡♡
みてみて愛宕♡♡♡♡♡ ご主人様の艦になるの♡♡♡♡♡ 嬉しいわあ♡♡♡♡♡
私もご主人様にたくさん可愛がってもらうの♡♡♡♡♡ テイトクなんてもうどうでもいいの♡♡♡♡♡
これから一緒に楽しみましょう♡♡♡♡♡ ふふふふふ♡♡♡♡♡」

「そうよおろろ♡♡♡♡♡ これからは二人でご主人様の艦♡♡♡♡♡
この体はご主人様のための体♡♡♡♡♡ 一緒に堕ちましょ♡♡♡♡♡
きつと楽しい毎日になるわあ♡♡♡♡♡ ふふふふふ♡♡♡♡♡」



秘部から淫靡な音を立てながら
暗い空間に快樂に狂った二人の女の淫猥な笑い声が響き渡る。

その声、その音は永遠に聞こえるのではないかというぐらい
鳴り続けた……………。

醜悪で淫靡で甘美で淫猥な匂いが満ちた闇の中で…
幾日も幾日も… 怪しくも美しいその声が…

敵に囚えられ…、元部下だった最愛の艦娘に性玩具にされ…
ほぼ毎日を淫らに過ごしていた かつて「提督」と呼ばれていた男
暗い空間に一人、惨めで滑稽な姿で放置されていた…

…闇の奥から聞こえる二人の女の淫靡な笑い声と二人分の足音
今日はいつもと違う…男はそう思った…

そしてそれはゆっくりと姿を現したのだった…



「ほらほらあ〜元提督う〜♡♡♡
会いたがってた高雄を連れてきてあげたわよ♡♡♡
オマエのこと連れて帰るつもりだったみたいだけど♡♡
でもお〜、もうどうでもいいみたいよお♡♡♡
ねえ高雄♡♡♡ふふふふ♡♡♡♡♡」



ふふふふ



「そうね愛宕♡♡♡ もう提督ったら、こんな所にいたのですね♡
ずいぶんと素敵な姿になられて♡♡♡
フフフフ〜……♡♡♡ みんなアナタを必死で探してるって
時にアナタって人はこんな所でお楽しみだったのでね♡
どうしようもないクズですね♡♡♡
そんなアナタ…いえオマエには…」

馬鹿めって言って言っって差し上げますわ♡♡♡」



ぬちゃ♡
♡
♡
♡

ああん♡
♡

ああん♡
♡

ああん♡
♡

ぬちゃ♡
♡
♡
♡

♡

ぬち♡
♡

ぬち♡
♡
♡

ぬち♡
♡
♡

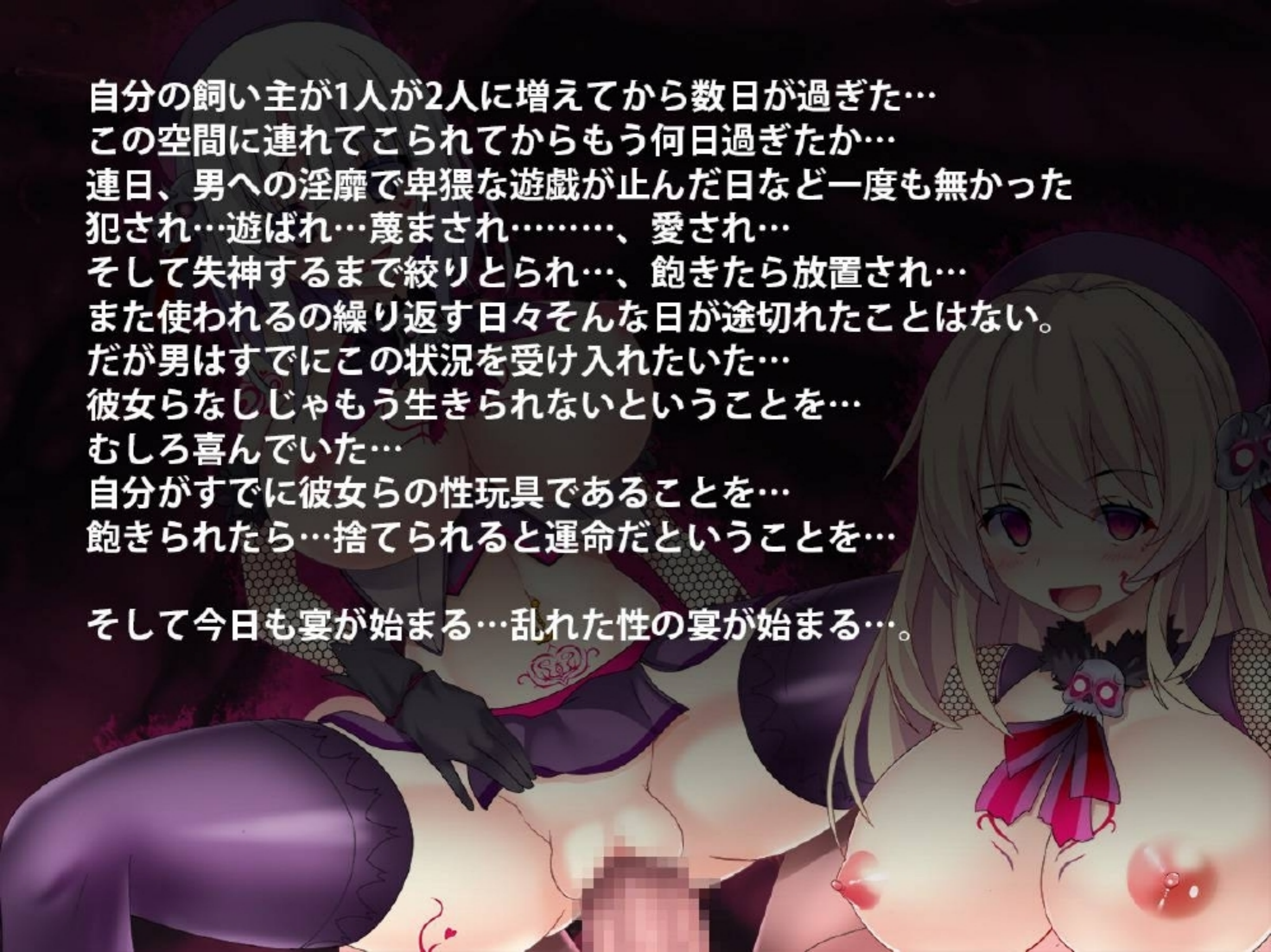
ぬち♡
♡
♡
♡

ぬち♡
♡
♡
♡

ぬち♡
♡



自分の飼い主が1人が2人に増えてから数日が過ぎた…
この空間に連れてこられてからもう何日過ぎたか…
連日、男への淫靡で卑猥な遊戯が止んだ日など一度も無かった
犯され…遊ばれ…蔑まされ……………、愛され…
そして失神するまで絞りとりられ…、飽きたら放置され…
また使われるの繰り返し日々そんな日が途切れたことはない。
だが男はすでにこの状況を受け入れたいた…
彼女らなしじゃもう生きられないということ…
むしろ喜んでいた…
自分がすでに彼女らの性玩具であることを…
飽きられたら…捨てられると運命だということ…
そして今日も宴が始まる…乱れた性の宴が始まる…。



「ほらほらスゴイでしょお♡♡♡♡♡
これ前立腺って言うのよ♡♡♡♡♡
これでもうちよっと遊べるわよ♡♡
ふふふふふふふふ♡♡♡♡♡
良かったわね♡♡♡♡♡」

「きゃはあ♡♡♡♡♡すごい♡
すごいわあ♡♡♡♡♡やればできるじゃない♡
倍ぐらいふくらんだわ♡♡♡♡♡
ふふふふふふふふ♡♡♡♡♡
ほんとよかったわね♡♡解体はまた今度ね♡
ふふふふふふふふ♡♡♡♡♡」

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡



「ああん♡♡♡ 高雄ずるいわ♡♡♡
私が先に使おうと思ったのに♡♡♡
もうおおお♡♡♡ ひっどおろい♡♡♡
いつもそうなんだから♡♡♡
じゃあ私はこのままアナル
弄くってるもん♡♡♡」

「ごめんねえ♡でも早い者勝ちよ♡♡
さっきから我慢できなかったの♡♡♡
ふふふふふふふふ♡♡♡♡♡♡
いつもよりおっきいち○ぽだし
たくさん出しなさいよ?
ザー○ンタンクさん♡♡♡」

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



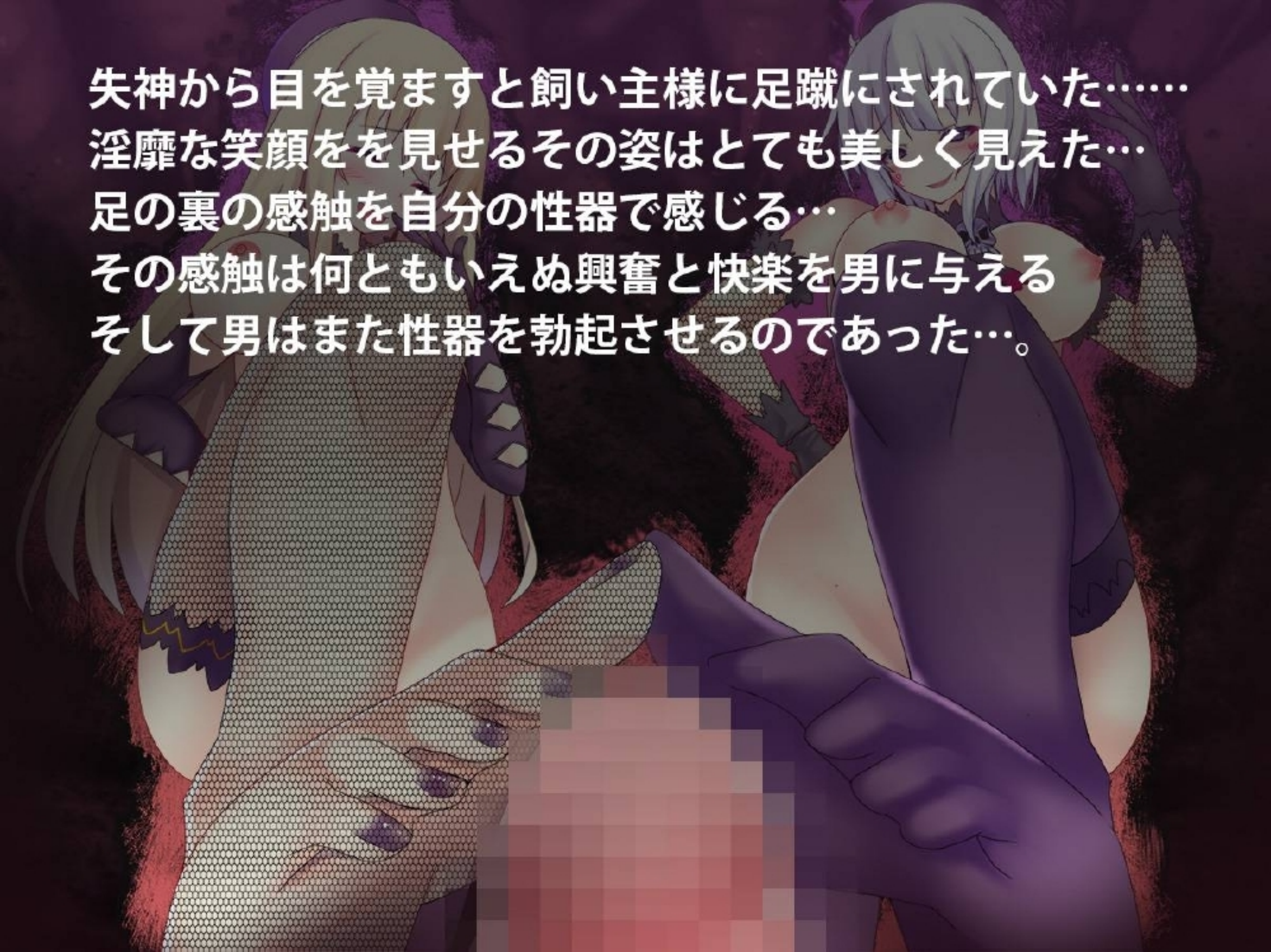


「ああんあああはああ♡♡♡♡♡
奴隷ち○ぼのくせに素敵よ♡♡♡♡♡
はああんああああああん♡♡♡♡♡
あああああん♡♡♡♡♡
愛宕にアナルいじられて喜んだの？
マゾ奴隷さまさまね♡♡♡♡♡」

ああん♡♡♡♡♡ああん♡♡♡♡♡
ほら♡♡♡♡♡ほら♡♡♡♡♡
早く出さいなさいよ♡♡♡♡♡
ああん♡♡♡♡♡ああん♡♡♡♡♡

ああん♡♡♡♡♡
ああん♡♡♡♡♡
ああん♡♡♡♡♡

ああん♡♡♡♡♡



失神から目を覚ますと飼い主様に足蹴にされていた……
淫靡な笑顔を見せるその姿はとても美しく見えた…
足の裏の感触を自分の性器で感じる…
その感触は何ともいえぬ興奮と快楽を男に与える
そして男はまた性器を勃起させるのであった…。

「鳴けえ」

え

！！



「

コ

「タイス」

「

~~~~~



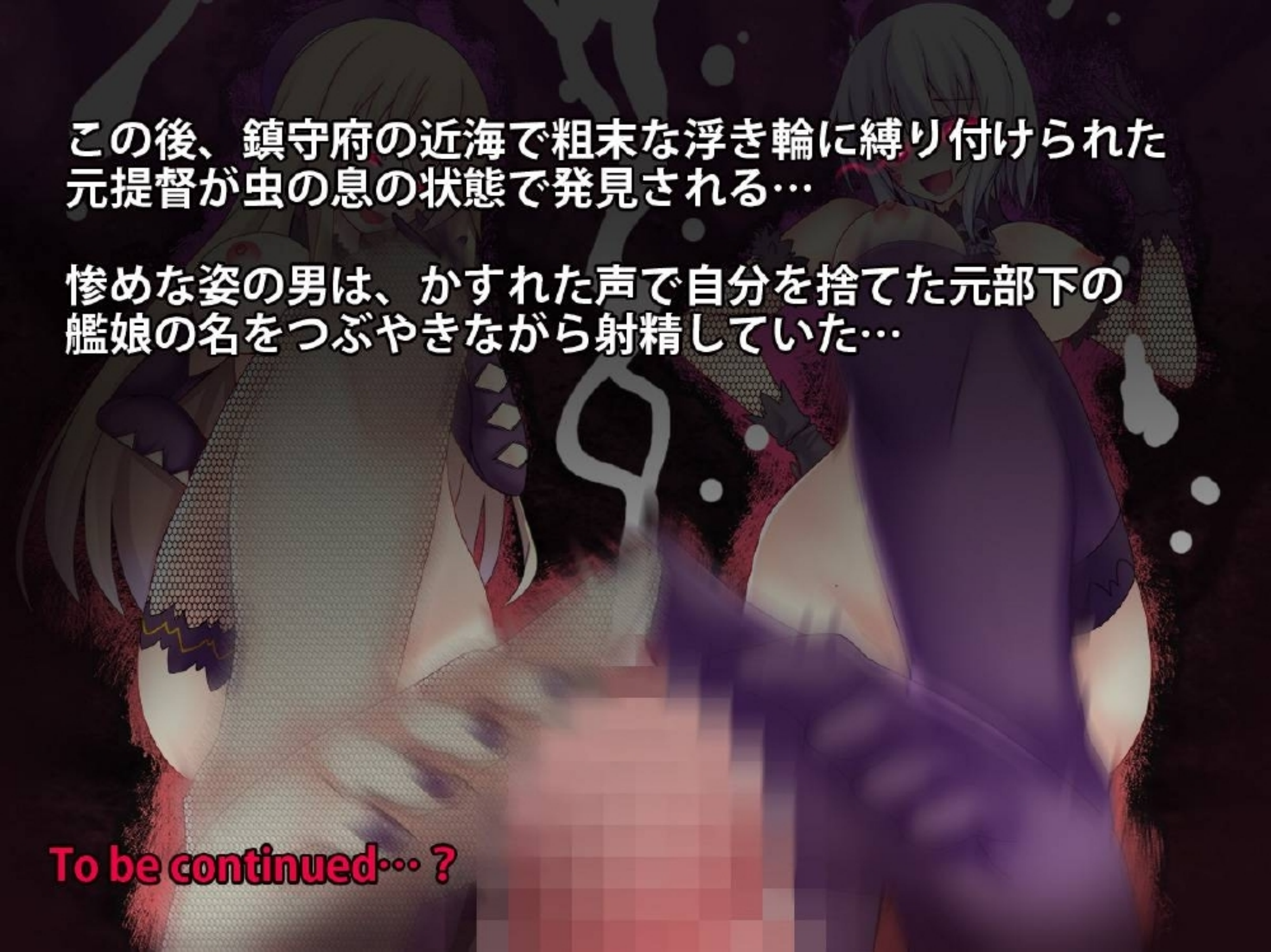


「ああ楽しかったわね♡♡♡  
ここいそいで結構遊んだだけ♡♡♡  
そろそろ飽きたわね♡♡♡どうする愛宕？  
だいたいやり尽くした♡♡♡  
もういい加減解体する？♡♡♡」

「そうね♡♡♡  
このまま鎮守府の近海に♡♡♡  
放り投げたおきましよう♡♡♡  
ここに惨めなこいつを見て驚いた子が♡♡♡  
ココに來るかもしいれないわ♡♡♡  
ふふふ♡♡♡  
楽しみね♡♡♡」







この後、鎮守府の近海で粗末な浮き輪に縛り付けられた元提督が虫の息の状態で見られる…

惨めな姿の男は、かすれた声で自分を捨てた元部下の艦娘の名をつぶやきながら射精していた…

**To be continued… ?**







































































































































































































































































# あとがき

この度は本作品をお買い上げありがとうございます。  
また、評価やレビュー、ご感想を下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

今回は前作の「悪堕ちた艦～ハジメノ艦～」の続編になっております。  
前作をリリースしたのが5月の真ん中でしたので、もう4ヶ月以上たってますね…  
ほんとはもっと早く完成させるつもりだったのですが夏コミとか…お仕事とか…